

京都大学瀬戸臨海実験所振興会  
水族館月報

No. 116

1962. 4月 (5月5日)

録 事

4月1日 空席のままであった技術員見習として古家昭治君(18才)が採用され、本日より出勤。

4月3日 昭和36年度水族館視察のため、深見事務員、稲垣技術員の2名は3月31日出発、みさき水族館、宮島水族館、下関水族館、須磨水族館を視察して本日帰館。

4月11日 5月下旬の天皇・皇后両陛下の白浜への行幸啓に際しては、水族館にも御幸の予定と承っている。これに関する会談並びに下検分が10日夕刻より11日にかけて、古藁の井及び現地で行われた。12日には当日使用の調度品の借入準備、13日には当日に備えての修築入札が行われ、14日より諸工事が始められた。このため京都からは、浅野監事、大嶋監事を含む10名が来所された。

4月14日 1月12日完成の新水槽に尚若干の漏水箇所があるので京大山本和夫教授は、その状況並びに漏水防止工事視察のため来館、大林組と打合わせを行う。

4月17日 15馬力の海水揚水ポンプ据付、本日その試運転を行ない、若干の調整の後27日より運転開始。

全日 今年の春季職員リクリエーションは道成寺——日の岬のピクニックと決定。17・18の両日2班に分けて行われた。

4月19日 タカアシガニ飼育のG水槽冷却用のウォーターチリンクユニット(冷却・加熱装置)の据付ほぼ完了、試運転を行う。21日より運転を開始し、50トンの地下水槽の冷却を始めた。22日10時30分より地下水槽の冷却水とタカアシガニの15トン水槽水との間の循環を始め、23日9時30分タカアシガニ水槽水温は13℃に下降して冷凍器は停止した。

4月20日 9カ月の予定で米口及びイタリアに留学することになっていた山路委員は、9時30分白浜口発の〆きのくに〆にて実験所及水族館より多数の見送りを受けて出発した。25日マツツにより立川を出発、無事サンフランシスコ着の報があった。

山路委員の出発後は、さきの常任委員会での決定に従い時岡委員が次の委員会まで臨時に常任委員代表をつとめることとなった。

4月20日 新発電機室に新設された30 KVAの発電機を動力電源とし、移設された出力10 KVAの旧発電機を電灯電源として8時間わたる停電を無事に過した。

4月27日 口水槽（新館大水槽）漏水防止工事は本日終了。5月上旬には整備公開の予定。

全日 榎山技術見習はバイクで公用に出かける途中 瀬戸防波堤付近の曲り角で白急タクシーと衝突して軽傷を受けた。白急タクシーが現場付近で工事用リヤカーを追い越そうとした際に起きた事故である。

## 業 務 概 況

### ◎ 4月の入場者数

区 分	大 人	中 人	小 人	合 計
水族館発売	1,674	434	1,504	1,868
団体	2,371	—	—	2,371
交通公社発売	1,100	—	—	1,100
近畿ツリスト発売	30	—	—	30
日本旅行会発売	146	—	—	146
明光バス発売	3,626	—	1,490	3,775
合 計	8,790	434	2,994	9,136
無 料	南白浜小学校児童他			130

団 体 : 一般 427組, 学生 29組 合計 456組

### ◎ 4月の事業収入

観光券売上金	2,160,782
窓 口 売 上	1,142,790
交通公社クーポン	296,058
近畿ツリストクーポン	810
日本旅行会クーポン	3,954
明光バス観光券	717,170※
予金・積立金利子	—
手 数 料	39,769
絵 は が き 拵下	94,710
パンフレット拵下	11,460
南極生物報告拵下	—
魚 類 拵 下	—
雑 収 入	1,240
合 計	2,307,961

#### ※ 明光バス観光券未収分

大人券 5218枚

小人券 39枚

水族館経費

費 目	金 額	備 考
人件費	247240	
会議費	8420	
備品費	43005	アサヒペンタックス, 角型コンデンサーレンズ
消耗費	54993	
事業費	103541	
維持費	2440	
其他諸費	144271	春の行果費用他
積立金	519379	
予備費	—	
合 計	1,123,289	

実験所経費

費 目	金 額	備 考
研究費	48350	山路・布施委員
奨学金	—	
備品費	—	
消耗費	—	
刊行費	—	
役務費	—	
合 計	48350	

伝物館経費

費 目	金 額	備 考
人件費	22474	荒賀研究員旅費
備品費	—	
消耗費	—	
役務費	—	
合 計	22474	

臨時費

摘 要	金 額	備 考
予備費	5660	山本和夫氏旅費
合 計	5660	

支出合計

水族館経費	1,123,289
実験所経費	48,350
伝物館経費	22,474
臨時費	5,660
合 計	1,199,773

◎ 4月の現在高

今月の収入合計	2,307,961
今月の支出合計	1,199,773
現 在 高	1,108,188

◎ 前年度との比較

	1961	1962	増 減
入 場 者 数	99639	91336	- 8303



## 水族館記事

- ◎ 3日 K水槽のフィルターと泥砂の再セットを行ない循環再開
- ◎ 4日 K水槽は、藻場の生物を展示することになっているが、H水槽の洩水止めがすむまで、かりにイセエビと磯魚類を収容する。
- ◎ 10日 先月入槽の海産稚アユ(№3)水槽)は5個体に減ってしまったので同槽へハコフグ類を補充した。尚、残りの稚アユは海水中での生存期間をテストする意味で、そのままにしておく。
- ◎ 12日 ウミガメ水槽(№22・26水槽)の保温を停止。 水温 16.2℃
- ◎ 12日~15日 の間に屋外プールのアカウミガメ3頭が相次いで死亡した。
- ◎ 13日 H水槽のハマチは、同槽の洩水止め工事中、T水槽へ移す予定であったが、吸虫が大量に寄生しているのを、これを駆除したのち(資料Ⅱ)海ガメプールに隔離することとし、その準備に駆除テストと海ガメプールの大清掃を行った。
- ◎ 14日 T水槽で展示していたタカアシガニ8個体をG水槽へもどし、T水槽はH水槽の工事中、大型磯魚を展示する。
- ◎ 同日 H水槽の全魚類を移動、ハマチ・カンパチは吸虫駆除ののち、海ガメプールへ。サメ類は№24、R<sub>1</sub>へ。
- ◎ 19日 冷蔵機試運転に際し、大阪金屋整備課員より、同機の発停操作、保守要点、ガス洩検査法等を教わる
- ◎ 25日 明石の活魚運搬船(網本磯吉氏)より、ハオコゼ約2,500個体をはじめ、マダコ イイダコ テナガダコ セトダイ アイナメ等が入槽、同船は魚介類の輸送に、時々白浜へ来るので、今後もその機会にタコ類と内湾性魚類を運んでもらう予定である。
- ◎ 上記のタコ類は、№27・28水槽に展示したが、両水槽とも給水量が少ないので、臨時に№24水槽の予備給水管よりゴムホースで補充している。第一、二水槽室は、給水管が細い上に古くなって、給水事情が著るしく悪いので、早急に改良が望まれる。
- ◎ 先月入槽のシビレイイ3個体は、いぜん元気で、未確認であるが、夜間餌(魚肉片)をとっているらしい。

◎ 4月の自家採集

月 日	採集場所	方 法	人員	主目的
5日午前	実験所裏浜	地曳網に便乗	2名	フグ類、ハナカ
〃 午後	円月島北側	碇採集	2〃	} 稚魚類 ウニ類 ウミウシ類
6日〃	〃 周辺	〃	3〃	
7日〃	動物園下碇	タイドプール干し	3〃	
8日〃	江津良地先	碇採集	2〃	
15日〃	塔島東側	潜水	3〃	小型魚類
21日〃	円月島北側	タイドプール干し	3〃	小エビ類
24日〃	小島(三岐産先)	碇採集	2〃	タマキビ類

◎ 主な採集水族名

魚 類	<u>ムギイワシ</u> <u>タナバタウオ</u> <u>イレスミハセ</u> <u>ナベカ</u> <u>オオスギイシモチ</u>
	<u>クロホシイシモチ</u> <u>カゴカキダイ</u> <u>カミナリベラ</u> <u>ニシキベラ</u> <u>セダカスズメダイ</u>
	<u>ハコフグ</u> <u>シヨウサイフグ</u> <u>クサフグ</u> <u>アサヒアナハゼ</u> <u>イタテンカジカ</u> <u>イリカサゴ</u>
	<u>アイナメ</u>
無 脊 推 動 物	<u>ハナガサクラゲ</u> <u>オウギウミドリ</u> <u>サンゴイソギンチャク</u> <u>ウメボシイソギンチャク</u>
	<u>ケヤリムシ</u> <u>ヒメセエビ</u> <u>アカシマエビ</u> <u>サラサエビ</u> <u>アシナガモエビ</u> SP
	<u>イロスジエビ</u> <u>テッポウエビ</u> <u>モドキ</u> <u>ミズヒキガニ</u> <u>キンセンガニ</u>
	<u>フタバベニツケガニ</u> <u>サメハダベニオウギガニ</u> <u>スベスベマンジュウガニ</u>
	<u>ケスカオウギガニ</u> <u>ハナオトウミウシ</u> <u>クロシタナシウミウシ</u> <u>ウミフクロウ</u>
	<u>クモガタウミウシ</u> <u>イソアブモチ</u> <u>ハナイカ</u> <u>ヒメコウイカ</u> <u>メヒカリイカ</u>
	<u>アラレタマキビ</u> <u>ミスガイ</u> <u>ウミシダ</u> <u>スナヤツデ</u> <u>ヒトデ</u> <u>アカクモヒトデ</u> <u>アカウニ</u>
	<u>コシタカウニ</u>

◎ 主な購入水族名

エビ網漁船便乗採集は合計12回行った。

魚 類	<u>シロザメ</u> <u>サカタザメ</u> <u>カスザメ</u> <u>カシギエイ</u> <u>ヒラダイ</u> <u>ボウウミヘビ</u> <u>ヒメエビス</u>
	<u>イトウダイ</u> <u>アカマツカサ</u> <u>エビスダイ</u> <u>アカハタ</u> <u>カケハシハタ</u> <u>ホウセキハタ</u>
	<u>インガキダイ</u> <u>セトダイ</u> <u>フエフキダイ</u> <u>メイチダイ</u> <u>ミギマキ</u> <u>イタチウオ</u> <u>ギンポ</u>
	<u>イラ</u> <u>ブダイ</u> <u>アオブダイ</u> <u>キンヤクダイ</u> <u>シラコダイ</u> <u>チヨウチヨウウオ</u> <u>ウミスズメ</u>



カワハギ トラフグ シマフグ サツマカサゴ オニカサゴ アマカサゴ オニオコゼ  
ハナミノカサゴ ハオコゼ アイナメ クジメ ワニゴチ アンコウ  
 無 ヒオウギヤギ ビロウドトゲトサカ ウミキノコ サドカリリギンチャクSP ウミカラマリ  
 脊 ネジレカラマツ セミエビ カノコイセエビ コブセミエビ ゾウリエビ ヒロバウチワエビ  
 様 シマイシガニ アカシガニ アケウス ケアシガニ カバトゲウミギク ボウシュウボラ  
 動 コウカ マダコ イダコ テナガダコ オオアカヒトデ オキノテズレモズル  
 物 イイジマフクロウ

◎ 4月30日現在飼育中の動物は総計294種5400個体以上で、その内訳は次の通り。

このうち、観覧水槽に収容、展示中の動物は、282種3610個体以上。

カイメン類	2種	多毛類	2種	ヒザラガイ類	1種
ヒドロ虫類	3種	カブトガニ類	1種	イカ類	2種
ウミトサカ類	4種	フジウミカサゴ類	2種	タコ類	3種
ヤギ類	8種	エビ類	15種	ウミシダ類	4種
ウミエラ類	1種	サドカリ類	5種	ヒトデ類	7種
イリギンチャク類	11種	カニ類	24種	クモヒトデ類	3種
イシサンゴ類	10種	アマフラシ類	9種	ウニ類	11種
ツノサンゴ類	2種	二枚貝類	7種	ナマコ類	6種
ハナギンチャク類	1種	巻貝類	16種	ホヤ類	4種
軟骨魚類	12種	軟骨魚類	120種	カメ類	3種
		(内熱帯淡水魚)	21種		

## 資 料

### ◎ I 4月の気象 (09時 観測)

南水槽室 (水温・比重は No.25水槽)

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数:16	3	5	8
室 温 (°C)	$\frac{10.5 \sim 17.5}{14.7}$	$\frac{12.4 \sim 17.0}{15.4}$	$\frac{16.1 \sim 18.2}{17.1}$
水 温 (°C)	$\frac{12.54 \sim 15.24}{14.41}$	$\frac{14.00 \sim 16.40}{15.37}$	$\frac{15.48 \sim 16.30}{15.86}$
比 重 (015)	$\frac{24.24 \sim 25.67}{25.12}$	$\frac{24.17 \sim 25.47}{24.97}$	$\frac{24.87 \sim 26.35}{25.40}$

### 新 館

水   H (°C)	$\frac{13.8 \sim 16.2}{14.8}$	$\frac{15.2 \sim 16.9}{16.0}$	$\frac{16.3 \sim 17.0}{16.7}$
温   T <sub>8</sub> (°C)	$\frac{13.8 \sim 15.8}{14.7}$	$\frac{15.0 \sim 17.0}{16.0}$	$\frac{16.1 \sim 16.8}{16.5}$

### 取 入 口

水 温 (°C)	$\frac{14.04 \sim 15.60}{14.73}$	$\frac{15.12 \sim 17.00}{16.00}$	$\frac{15.80 \sim 17.00}{16.67}$
比 重 (015)	$\frac{24.74 \sim 25.69}{25.36}$	$\frac{24.41 \sim 25.83}{25.21}$	$\frac{24.70 \sim 25.83}{25.30}$

### ◎ II ハマチの寄生虫について

H水槽のハマチ・カンパチの体表に、Benedenia seriolae (YAMAGUCHI) の大量寄生を発見した。吸虫の体長は2~10%、体の前部に1個(♂)、後部に2個(♀)の吸盤をどなえ、これで魚体に強く吸着している。この吸虫はこれまでも、須磨、みさき公園の海水水族館と近大養魚場で発生した例があり、ハマチは虫をおとそうとして、水底入盛んに体をこすりつけるので遂には体側の表皮が殆んど剥げて死んでしまう。

幸い、この吸虫は淡水に極めて弱く、又ハマチは淡水中でも30分間は生存し、その後の飼育にもほとんど影響のないことが判っていた(近大実験所、原田輝男主任の話)ので、4月14日浅水止め工事のため、H水槽

の全魚類を移動させる機会に、淡水による駆除を行った。

52個体のハマチ・カンパチは、10個体ずつにわけて、水族館前の淡水プールへ仮設した生簀の中に、15分向入れたのち、海ガメプールへ放った。

吸虫は生時殆んど透明であるが、淡水浸漬の3分後には白くなりはじめ、10分後には真白になつて魚体から離れる。

寄生数はハマチ1個体について、おおよそ30~150個体であつた。

駆虫の際の死亡魚は皆無であつたが、海ガメプールに放つてから月末までにハマチ・カンパチ各2個体が死亡した。死因は水槽から取り上げる際に受けた外傷である。他の個体は4月末現在何れも元気で、よく摂餌している。

なお、この吸虫の標本は博物館に保存しておく。

### 来 訪 録

4月13日 ニューカレドニアにあるヌメア水族館の生物採集技師 Dr. Marlet 当館視察のため来館。

4月16~19日 淡水魚海実験所島海・屋台両所員当館視察のため来館。

4月23~24日 アメリカ、ジョージア大学教授 Dr. Odum および家族3氏視察のため来館。

昭和37年5月5日 (NO.116)

編集兼 時 岡 隆  
発行者

発行所 瀬戸海美駿所根興会  
和歌山県白浜町  
瀬戸臨海実験所内  
(Tel. 白浜温泉 515)